

2016年(平成28年)7月15日 金曜日

## 南口の再開発

### 市民も独自案

三島 駅



三島駅南口の整備構想について話し合う豊岡武士・三島市長（左から2人目）と市民団体の代表者ら＝三島市民文化会館

三島駅南口の再開発について考える催し「みんなで語ろう!! 三島駅南口」が13日夜、三島市民文化会館で開かれた。市が開発計画の概要を説明したほか、二つの市民団体が環境や景観、にぎわいなどに重点を置いた独自案を発表した。

再開発への市民の関心が高まっているとして、市内のNPOが情報を共有する場を設けようと企画。約200人が参加した。

駅南口の東街区(約1・3畓)と西街区(0・49畓)で、市は再開発計画を進めている。東街区では高層マンションを軸にしたモデル案を示し、今年度中に事業者を決める予定だ。また、西街区は市有地の一部を民間に売却し、2020年東京五輪前のホテル開業をめざしている。豊岡武士市長は「若者の働く場所を確保し、三島が持続的発展をするための重要プロジェクトだ」と訴えた。

「三島駅南口の整備を考える市民の会」代表の渡辺豊博・NPOグラウンドワーク三島専務理事は、三島のまちづくりは市民が主導

してきたとして、民間に任せるとはならず、市民総意を形成しての事業実施を訴えた。また、工事による「水の都・三島」の湧水への影響を懸念した。

「三島の30年後を語り合う若者の会」の石井真人代表は、西街区のホテルは長期滞在ができる多用途ホテルを提案。また、東街区には図書館など市民が必要とする施設を集結させ、世代を超えて集まりたくなる施設を造るよう求めた。